

形式名 PA-36SH-4
FA-30SH-4



大阪ガス

ガステーブルコンロ

取扱説明書

10-900
10-901 型

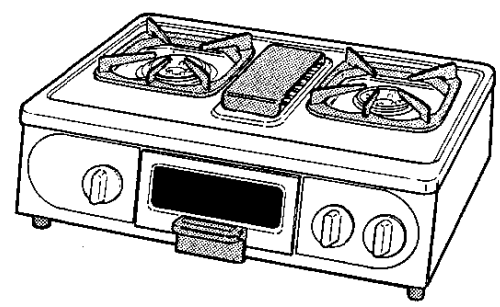
保証書付

本社ガスビルサービスセンター・支社所在地および電話番号

本社ガスビルサービスセンター	☎541	大阪市中央区平野町4丁目1番2号	☎大 阪 06 (202) 2221
南 支 社	☎557	大阪市西成区玉出東2丁目9番41号	☎大 阪 06 (652) 0001
北 支 社	☎532	大阪市淀川区十三本町3丁目6番35号	☎大 阪 06 (301) 1251
南 部 支 社	☎590	堺市住吉橋町2丁目2番19号	☎堺 0722(38) 1131
北 部 支 社	☎569	高槻市藤の里町39番6号	☎高 槻 0726(71) 0361
阪 神 支 社	☎662	西宮市和上町4番11号	☎西 宮 0798(26) 3101
東 部 支 社	☎578	東大阪市稲葉2丁目3番17号	☎河 内 0729(62) 1131
京 阪 支 社	☎573	枚方市西田宮町16番17号	☎枚 方 0720(41) 1251
神 戸 支 社	☎650	神戸市中央区相生町5丁目13番10号	☎神 戸 078(576) 5231
京 都 支 社	☎604	京都市中京区烏丸通御池梅屋町358	☎京 都 075(231) 8151
奈 良 支 社	☎631	奈良市学園北2丁目4番1号	☎奈 良 0742(44) 1111
和 歌 山 支 社	☎640	和歌山市本町1丁目5番	☎和 歌 山 0734(31) 2481
姫 路 支 社	☎670	姫路市神屋町4丁目8	☎姫 路 0792(85) 2221
東 播 支 社	☎675	加古川市加古川町桑津29-1	☎加 古 川 0794(21) 1801
豊 岡 支 社	☎668	豊岡市三坂町6丁目57番地	☎豊 岡 07962(3) 2221
湖 南 支 社	☎525	草津市追分町字荒畑680-1	☎草 津 0775(62) 5311
彦 根 支 社	☎522	彦根市大東町12番11号	☎彦 根 0749(22) 3131
長 浜 営 業 所	☎526	長浜市南呉服町3番4号	☎長 浜 0749(62) 7171

その他当社サービスステーション、およびサービスショップ

立消え安全装置付 チャオバーナ付



もくじ

各部の名称.....	2	故障・異常の見分け方と処置方法.....	12
特に注意していただきたいこと.....	2	長時間使用しない場合.....	13
器具の設置.....	5	アフターサービス.....	13
使用方法.....	6	仕様.....	14
日常の点検・手入れ.....	10		

ごあいさつ

このたびは、大阪ガスのガステーブルコンロをお求め
いただきありがとうございました。

別添の保証書とともに、この「取扱説明書」を大切に保
存してください。

ごあんない

別売部品として、防熱板、ちり受けざら、中華ごとか
があります。詳細は販売店におたずねください。

●防熱板

- 15-100-0084.....壁取付用(後)
- 15-100-0085.....壁取付用(横)
- 15-100-0089.....本体取付用
- 15-100-0105

●ちり受皿

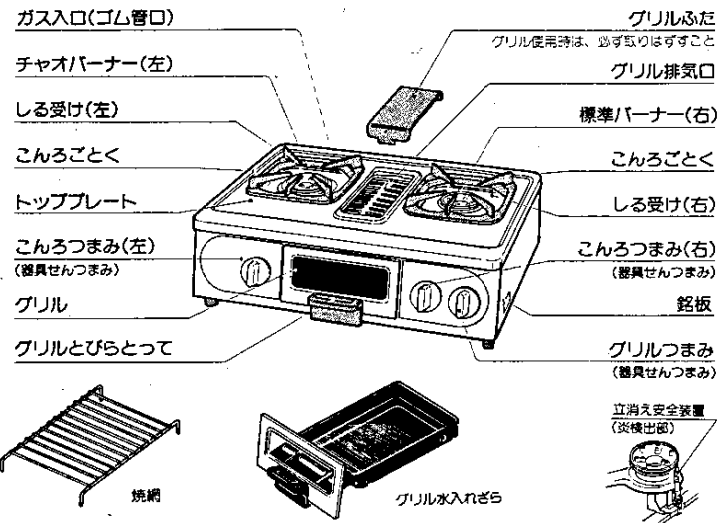
15-100-0083

●中華ごとか

15-100-0058

各部の名称

*下のイラストは10-900です。



- 10-900はチャオバーナー(大きい方)とチャオバーナー用しる受け(内径の大きい方)が左側、10-901は右側です。

特に注意していただきたいこと

使用ガスについてのご注意 (例)

- 器具(銘板)に表示してあるガス(ガスグループ)以外では使用しないでください。
- この器具にあうガスの種類を器体右側の銘板に表示してありますので、お宅に供給されているガスと一致していることをお確かめください。特に転宅時にはご注意ください。

PA-30SH-4L
都市ガス用

13A 8200kcal/h

製造年月・製造番号
製造事業者名

火災予防

- 器具の上や周囲には燃えやすいものを置かないでください。また、近くでガソリン、ベンジン、各種スプレーなど引火のおそれのあるものを使用しないでください。
- 火をつけたまま器具の使用場所をはなれないでください。特に天ぷら揚げをしているときは危険です。
- 火をつけたままの就寝・外出は絶対にしないでください。

換気に注意

- 使用中は時どき窓を開けるか、換気扇を回してお部屋の空気を入れ替えてください。しめきった部屋で長時間使用すると空気中の酸素が減少し、不完全燃焼により一酸化炭素中毒の危険があります。

ガス事故防止

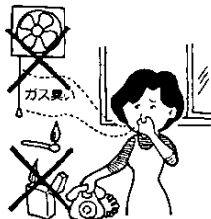
- ゴム管はガス用のゴム管(JISマーク、または「検査合格」と入った年号入りのもの)を使用し、ビニール管は絶対に使用しないでください。またLPガス用と都市ガス用がありますので注意してください。
- 新しいゴム管を使用してください。ひび割れしたり、差し込み口がゆるんでいるゴム管は必ず取り替えてください。
なお、半年に1回は点検してください。
- 使用時の点火・消火のほか、使用中には時どき正常に燃焼していることを確かめてください。
- 使用後は必ず器具せんつまみを「止」の位置まで回し消火したことを確かめてください。
また就寝時や外出の際には、ガス元せんは必ず閉じてください。
- ガス漏れに気づいたときは、すぐ使用をやめてガス元せんを閉じ、窓や戸を全部開けて、ガスを外へ出してから、大阪ガス社または大阪ガスサービスショップに連絡してください。

ご注意

万一ガスが漏れたときは、絶対に火をつけたり、換気扇その他電気器具にふれたり(スイッチの「入」、「切」や電源プラグの抜き差し等)しないでください。火や火花で引火し、爆発事故をおこす危険があります。



ガス元 プラスチック



ガス漏れ

使用上のご注意

① 用途について

- 調理以外の用途(炭・煤炭おこしなど)には使用しないでください。過熱・異常燃焼などによる焼損・火災などのおそれがあります。
- 衣類の乾燥などに使用しないでください。衣類に火がつき火災になることがあります。

② 市販の補助具使用について

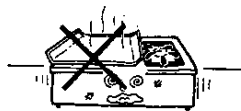
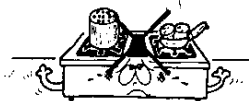
- こんろの炎をふさいだり、おおってしまうような不良補助具や大きな鉄板・陶板類は使用しないでください。不完全燃焼を起こしたり、器具が異常に過熱するおそれがあります。
- 上のせてんぴは使用しないでください。異常過熱し故障の原因となります。
- しる受けの上に市販のアルミはく製する受けをのせてお使いになるときは、点火用穴をふさいだり、浮きあがってごとくとする受けとのすき間をふさいだりしないようにお使いください。バーナーに近づいて炎にあたると、点火しなかつたり、不完全燃焼の原因となりますのでご注意ください。

③ 火傷に注意

- 使用中、および使用直後はバーナー、ごとく、トッププレート、グリル排気口、グリルとびらなどは高温になりますので、手を触れないでください。
- グリルをお使いのときは、グリル排気口から高温の排気熱が出ますので、顔などを近づけないでください。
- 特にお子様がいる場合は料理の最中に、器具に触れることがないように注意してください。器具にさわって火傷をしたり、なべ等をひっくりかえすなどが考えられます。

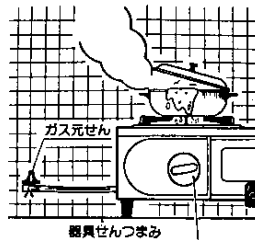
異常時の処置

- 万一、異常燃焼を起こしたときや緊急の場合は、あわてずに器具せんつまみとガス元せんを閉じてください。



炎に触れない

点火用穴をふさいがない



器具せんつまみ

器具の設置

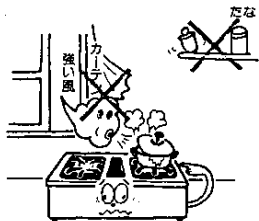
設置前の準備

① 梱包材の除去と部品の確認

- 各部分の包装部品を取り除いてください。
- 各部品が正しくセットされているか確かめてください。
(部品のセットのしかたについては7・11ページを参照してください)
- 器具銘板の表示ガス(ガスグループ)とご使用になるガスとが一致しているか確認してください。

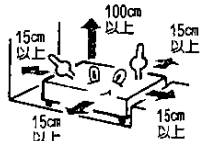
② 設置場所について

- 強い風の吹き込むところでは使用しないでください。風で吹き消えることがあります。
- たなの下など落下物の危険のあるところでは使用しないでください。
- カーテンや燃えやすいものそばでは使用しないでください。
- じょうぶで水平なところに設置してください。
- 設置や移動の際、可燃物に近づけないでください。



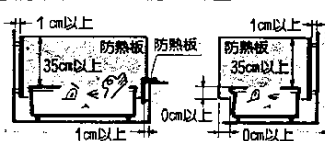
火災予防上必要な離隔距離

① 可燃物との離隔距離



- 器具は周囲の可燃物より15cm以上、上方は100cm以上離して設置してください。

② 防熱板による防火措置

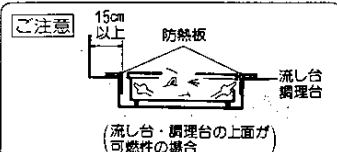


- 周囲の可燃物から15cm以上離せない場合は、図のように別売の防熱板を取り付けてください。



- 上方に防熱板を取り付けた場合、または不燃材の場合は80cm以上離してください。

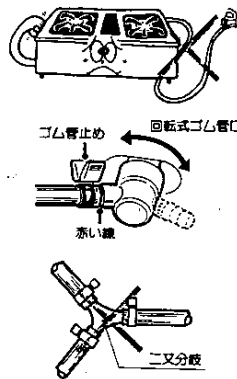
ステンレス板やタイルなどを可燃性の壁に直接張りつけた場合にも、伝熱のために長年の間に可燃物が炭化し、火災になることがありますので②の防火措置のうえお使いください。



- 周囲の可燃物から15cm以上離して設置できる場合でも、器具のトッププレートと流し台などの上面がほぼ同一のときは、図のように防熱板で保護してください。
(コード：15-100-0105)

ゴム管の接続

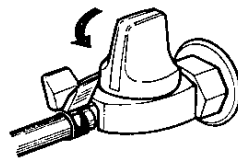
- ゴム管はガス用のゴム管を使用し、折れたり、ねじれたりしないようできるだけ短く(2m以下で適当にゆとりをもたせる)。また、器具の下を通したり器具に触れたりしないようにしてください。
- ゴム管はゴム管口の赤線まで差し込み、ゴム管止めで確実に止めてください。
- ゴム管の継ぎだしや二又分岐は絶対にしないでください。
- ゴム管は、薬品、油などで損傷しないように注意してください。
- ゴム管の使用状態が常に点検できるように見える所で接続してください。



使用方法

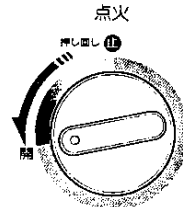
点火前の準備と確認

- すべての器具せんつまみが「止」の位置にあることを確認したのち、ガス元せんを全開にしてください。
- ガス元せんを開く際には、誤って器具が接続されていないガス元せんを開いたり、他の器具のガス元せんを操作したりしないよう十分注意してください。



点火

- ガス元せんを開け、器具せんつまみを押しながら「開」の方向へ回すと「カチン」と音がしてバーナーに着火します。バーナーに着火したことを確認してから数秒間(立消え安全装置が動くまで)押し続けたまま「開」の位置で保持してください。
- なべ等をごとくにのせてから点火操作をしてください。火移りが確実ですし、ガスのムダが省けます。



- 必ず点火を確認してください。万一点火しない時は、器具せんつまみを「止」の位置に戻し、あらためて点火操作をしてください。
- しばらく使わなかった時や初めて使う時には、ゴム管内に空気が入っていますので、空気を追い出すまで数回点火操作をくり返してください。

消火

- ①器具せんつまみを「止」の位置まで回すと火が消えます。
- ②ご使用後は、必ずガス元せんを閉じてください。

火力調節

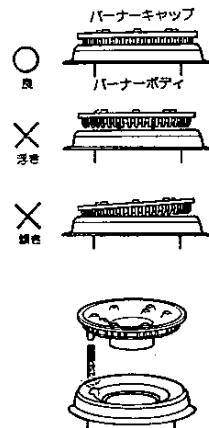
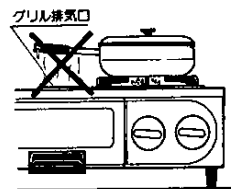
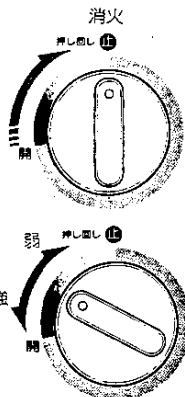
- 器具せんつまみを「開」の位置より「止」の方向へ戻せば火力が弱くなります。炎を見ながら調節してください。

空気調節

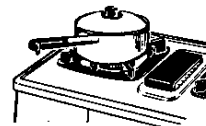
- この器具は空気調節がしてありますので、そのまま使用してください。

こんろ部の使い方、および使用上の注意

- 点火の際には、こんろになべや、やかんをかけて点火し、全部の炎口に着火したことを必ず確かめてください。
- 炎を小さくすると消えることがありますのでご注意ください。
- 風の吹き込みや、ふきこぼれなどによるバーナーの消火にご注意ください。
- なべの底についた水滴はふきとってからごとくの上のせてください。
- グリルとこんろ同時使用の場合、なべの取手をグリル排気口の方へおけないでください。(排気熱のため取手が熱くなります)
- 点火装置の火花の出る先端に手を触れたまま操作しますと、電気ショック(ただし人体には害はありません)を受けますからご注意ください。
- こんろごとくに乗らない小さなやかんやトッププレートからはみ出すようななべや鉄板などを使用しないでください。
- バーナーキャップは左右をお間違えないように左右のバーナーに正しくはまるようにしてください。バーナーキャップは大きい方がチャオバーナー側です。
- バーナーキャップがきちんとはまっていないとバーナーの炎が不揃いになり、逆火してバーナーを傷めますので、ご注意ください。
- しる受け皿は「テマエ」を手前にして取り付けてください。

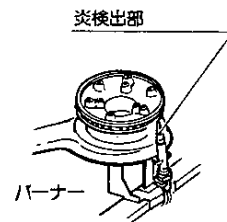


- 煮こぼれは火を消したり、バーナーや器具をはやくいためますので注意してください。(一度煮たら沸とうが続く程度の火力に)してご使用ください。
- ひどい煮こぼれがあった時は、すぐ火を消し、器具が冷えてから、10~11ページ「お手入れ」の項を参照のうえ必ず掃除してからご使用ください。
- こんろごとくは3本ならんだつめが手前になるように取付けてください。片手なべなどをお使いのときにも安定よくご使用いただけます。



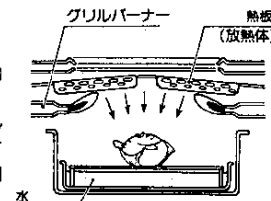
立消え安全装置についての注意

- 立消え安全装置の炎検出部に水滴や煮こぼれがつくと点火しにくくなったり、消火することがあります。なべの底についた水滴はふきとってからごとくの上のせてください。(煮こぼれにも注意してください)
- バーナーが煮こぼれなどでつまっていると、点火しないことがあります。
- 炎検出部に固いものをぶつかけたりしないでください。取付位置が変わると点火しにくくなります。

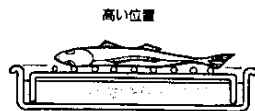


グリル部の使い方、および使用上の注意

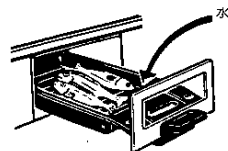
- はじめてお使いになる時は、必ず12~15分ぐらい空焼きをしてください。油を焼ききるため、煙が出て異常ではありません。
- ①グリル水入れざらには、必ずコップ一杯分(約200cc)の水を入れてご使用ください。グリル水入れざらに水を入れずに長時間グリルを使用しますと置台が過熱しますので注意してください。また、脂がこびりついて掃除に時間がかかります。
- ②焼網の上に調理するものをのせ、グリル内へ入れてください。
- グリル水入れざら、焼網は奥にあたるまで入れてご使用ください。



- 焼網は調理するものの厚さにより高・低使いわけができます。
- たくさん魚を焼くときは水を追加してご使用ください。脂がとびちるようでしたら水を入れ替えてください。



- ③使用中はグリルとびらをきちんとしめてください。
- グリル使用中はグリルとびら付近の温度が高くなりますので、グリルとびらとおよび器具せんつまみ以外には触れないでください。
- 使用中がガラスには絶対に水をかけないように注意してください。
- 加熱したグリル水入れざら水を急冷やさないでください。さが変形したり、水が加熱されて飛び散ったりして危険です。

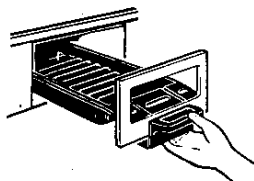


ご注意

使用中は必ずグリルふたをとりはずして使用してください。グリルふたをとりつけたまま使用されますと、排気熱のためグリルふたの塗装がはがれますので注意してください。またグリルの上にやかん、なべなどものを置いてグリル排気口をふさがないでください。

〈グリル水入れざらの使い方〉

- グリルはスライド式になっていますので、グリル水入れざらを途中で止まるところまで引き出して使用してください。焼物の反転、焼き具合などの確認が容易にできます。(グリルは右図のように持つと軽く持ち運ぶことができます。)取り外すときは、止まったところで少し持ち上げて引き出せば外れます。



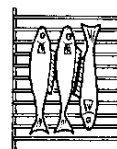
ご注意

熱いグリル水入れざらを持ち運ぶときは、グリルとびらとついで以外には触れないよう注意してください。

グリルの上手な使い方

- 焼網をセットし点火後3分くらい予熱した後、焼網に油を塗り、魚・肉を入れてください。こびりつきが少なくおいしく焼きあがります。
- 魚や肉は強い熱で表面を焼き、内部に栄養や肉汁をとじこめながら材料のもつまみを残すように焼くのが上手な調理法です。

- 魚の場合、こげやすい部分やヒレなどには厚目に塩を振りかけておくカアルミはくで包んでおくことこげ方が少なくなります。魚はできるだけ焼網の中央に寄せて並べてください。また、3匹焼く場合は図のように背を内側になるように並べるとうまく焼けます。



- 火加減は「開」と「止」の間で調節できます。材料の大きさ、種類、好みなどにより自由に火力や時間を調節してください。
- グリルを使用しないときはグリルふたをつけておいてください。こころでなべをご使用になるとき、ふきこぼれがグリル内に入るのをふせぎます。

日常の点検・手入れ

点検・手入れの際のご注意

- 安全にお使いいただくために、日常の点検・手入れを必ず行ってください。
- お手入れの前にはガス元せんを閉じ、器具が冷えてからお手入れをしてください。
- 安全装置およびガスが通じる部分は絶対に分解しないでください。
- 点検で異常を見つけたら、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス社に修理を依頼してください。

点検

- 器具のまわりに燃えやすいものはありませんか。
- ゴム管が古くなってひび割れたり、器具に触れたり、折れてはいませんか。またゴム管がガス元せんやゴム管口に十分差し込まれていますか。(3・6ページ参照)
- バーナーキャップ・こころごとく・しる受け・グリル水入れざら・トッププレートなどが正しくセットされていますか。
- 煮こぼれで、バーナー・パイロットバーナーの炎口が詰まっていますか。また立消え安全装置の炎検出部が汚れていませんか。
- グリル水入れざらに多量の脂がたまっていますか。

お手入れ

①器具外装

ぬれた布で汚れを落としたのち、十分水気をふきとってください。(特に汚れのひどいときには、中性洗剤をお使いください)油汚れなど、そのつど温かいうちに汚れを落とすとお手入れが簡単です。

ご注意

プラスチック、印刷面、塗装面のお手入れには強力洗剤、シンナー、ベンジンなどを使用しないでください。

故障・異常の見分け方と処置方法

異常又は故障の場合の処置方法

原因 \ 現象	現象											処置方法	参照ページ	
	点火しない	着火へ火移り(コックを可動域に動かす)できず着火する	使用中に消火	消火しない	異常で燃える	炎が安定しない	炎がふぶれる	異常音がだてて燃える	器具音がだてて燃える	ガス元側の異常	ガス元側の異常			
ガス元側の異常	●	●	●	●	●	●				●		ガス元せんを全開にする	6	
LPGガスがなくなりかけている	●	●	●	●	●	●				●		新しいボンベと交換する	-	
ゴム管の中に空気が残っている	●	●	●									点火操作を繰り返す	6	
ガス圧が適切でない	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		点検・修理を依頼する	-	
ゴム管が折れている	●	●	●									ゴム管の折れをなくす	6	
ゴム管のひび割れ・穴あき										●		新しいゴム管と交換する	3	
バーナーの取付けが悪い		●	●			●	●	●	●			点検・修理を依頼する	-	
バーナーキャップの浮き・傾き		●	●	●		●	●	●	●			バーナーキャップを正しく取り付ける	7	
バーナーの炎口の詰まり		●	●			●	●	●	●	●		ブラシ等で掃除する	11	
パイロットバーナー・点火装置の絶縁部の汚れ	●											やわらかい布で掃除する	11	
立消え安全装置の炎検出部の汚れまたは付近の炎口詰まり		●												
汁受け前縁逆になっている		●	●									汁受を正しく取り付ける	11	
器具の銘板と使用ガス不一致	●	●	●	●		●	●	●	●	●		点検・修理を依頼する	2	
点火操作が適切でない	●	●	●									使用方法(点火)参照	6	
空気調節が適切でない		●	●	●	●	●	●	●	●	●				
点火装置の故障	●													
リード線の接続不良	●											点検・修理を依頼する	-	
器具せんの故障	●			●						●	●			
立消え安全装置の故障		●	●											

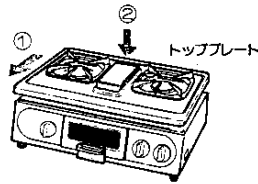
ご使用中にご不審な点がございましたら、ただちに使用を中止して上記点検をしていただき、なお不審な場合は大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社にご連絡ください。

② トッププレート

特に汚れのひどいときには、取りはずして中性洗剤などで水洗いしたのち、水気をふきとってください。

● トッププレートを取りはずすときは、トッププレート前面の右・左いずれかの角を上へもち上げれば、簡単にはずれます。

● 取り付けるときは、トッププレートの後部と器体(器具本体)の後部を合わせ、器体に押しさえ込んでください。



③ こんろごとく・しる受け・焼網・グリル水入れざら・グリルふた

中性洗剤などで水洗いしたのち乾いた布で水気をふき取ってください。

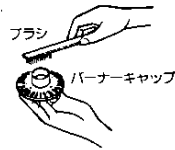


④ バーナーキャップ

● 炎が不ぞろいになったときや、汚れのひどいときは、取りはずして水洗い、または「ブラシや針金」などできれいに掃除してください。水洗いしたときは、水をよく切ってから取り付け、正常に燃焼することを確認してください。

(しる受け皿は「テマエ」を手前にして取り付けください。)

● バーナーキャップが目まりなどして悪くなった場合は、修理及び交換していつでもきれいな状態でご使用ください。詳しくは大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社にご連絡ください。



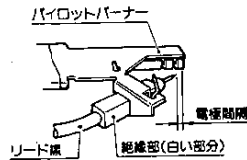
● バーナーキャップはバーナーボディに、確実にはめ込んでください。(7ページ参照)

⑤ 立消え安全装置の炎検出部

煮こぼれなどで汚れたときはやわらかい布などで汚れをふきとってください。(8ページ参照)

⑥ パイロットバーナー

パイロットバーナーが煮こぼれなどで汚れたり詰まったりすると点火しない原因となります。また煮こぼれや水分が点火装置の絶縁部(白い部分)に着くと、火花が飛ばない(ガスが出ていても火がつかない)原因となります。パイロットバーナーに点火しにくくなったときは、パイロットバーナー、絶縁部をやわらかい布などでふいて掃除してください。



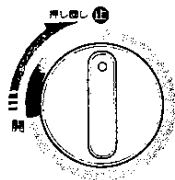
ご注意

点火装置の電極間隔が狂いますと点火しにくくなりますので、動かさないようにしてください。

安全装置が作動したときの処置方法

立消え安全装置

- ①バーナーの炎が消えたときには、安全装置が働いて自動的にガスが止まりますが、完全に止まるまで少し時間がかかります。バーナーの消火に気づいたときはすぐ器具せんつまみを「止」の位置に戻してください。
- ②再点火されるときは、周囲に生ガスがなくなるまでしばらく待ってから「使用方法」に従って点火してください。



長期間使用しない場合

- 各部の汚れを取り除き、ほこりなどの異物が入らないようにビニールをかけて、お買い求めになった時の箱に入れ、湿気やほこりの少ない所で保管してください。特にガスの通路部（ゴム管口など）には、ほこりが入って通路をつまらせないように注意してください。

アフターサービス

サービス(点検・修理)を依頼される前に

1. 12～13ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」の項を見てもう一度ご確認ください。
2. 確認のうえそれでも不具合な場合、あるいはご不明な場合は、ご自分で修理なさらないで、アフターサービスをお申し付けください。
3. アフターサービスをお申し付けのときは次のことをお知らせください。
(1)製品名 (2)形式名(銘板表示のもの) (3)現象(できるだけ詳しく) (4)道順

補修用性能部品の最低保有期間について

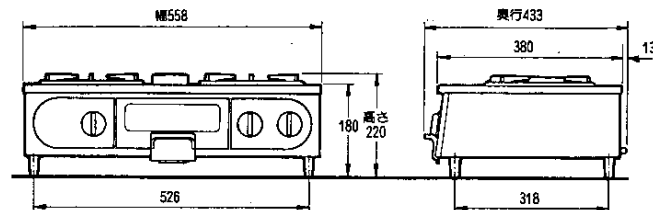
- 当社は当製品製造中止後、6年を基準に補修用性能部品を保有しております。

連絡先

- 補修用性能部品についての詳細、ご贈答、転居等によりガスの種類が変わるとき、その他ご不明の点はお買い上げの店またはもよりの大阪ガスサービスショップもしくは大阪ガス支社にご連絡ください。

仕様

外形寸法図 (単位:mm)



仕様

品名	10-900・10-901型
種類	ガスグリル付こんろ
点火方式	圧電点火装置
外形寸法(mm)	高さ220×幅558×奥行433
重量(本体)	6.7kg
ガス接続	φ9.5mmガス用ゴム管
安全装置	立消え安全装置

毎時ガス消費量

形式名	PA-30SH-4L・PA-30SH-4R					単位
	チャイバーナー	標準バーナー	グリル	全点火時		
都市ガス	6C	4200	2150	2240	8100	kcal/h
	13A	4200	2150	2050	8200	
	6A	4200	2000	2050	7950	
LPガス		0.35	0.176	0.17	0.69	kg/h

※本仕様は改良のためお知らせせずに変更することもあります。